**市民の皆さん、府職員の皆さん**

　皆さんに「バブル経済」崩壊後の釜ケ崎についてお伝えし、現在私たちが大阪府に要求している事柄について、理解とご支援をお願いしたいと思います。

　釜ケ崎は、近畿圏内を中心に全国各地の工事現場で働く日雇労働者約２万人の生活拠点であり、行政やマス・コミからは「あいりん地区」と呼ばれています。その労働者の街が、今、大変な窮状にみまわれています。

　「バブル経済」崩壊後の不況は、皆さんの生活にどのような影響を与えているでしょうか。「職」を確保できている人にとっては、多少、生活が窮屈になり、将来への不安が増したというところでしょうか。それとも、もっと深刻な事態に直面されている方もおられるかも知れません。

　釜ケ崎では、日雇労働者への求人が激減し、住む場所を確保するだけの収入が得られない多くの労働者が野宿を余儀なくされています。それは、すでに２年を越えて続いている状態であり、ほぼ毎日のごとく、野宿を余儀なくされる労働者の内の一人が、路上での死

を迎えさせられています。

　私たちは、労働者が路上で死を迎えさせられる状態が放置されていることを、黙ってみていることはできません。釜ケ崎の日雇労働層という、社会を構成する様々な階層の中の一つの部分が、他の階層よりも際立って高い割合で路上死を迎えさせられているという事実は、経済の好況とか不況とかの問題ではなく、社会的な差別の問題であり、行政の無策の問題であると考えています。

　行政の担当者は、府民の税金を預かっている立場であり、予算をつけるにしても優先順位があると言って、自分たちの無能を合理化しています。労働者が毎日のごとく路上で死ぬ事態は、社会的に対策をたてるのに、そんなに低い順位しか与えられなくていいものでしょうか。納税者の怒りをかうような無駄使いなのでしょうか。

　皆さんは、どうお考えでしょうか。多分、そんな役人の言葉は、なにもしないための言い逃れだと判断されることだろう思います。

　皆さん、私たちは、ただ「不当だ」、「人殺し行政だ」と言いつのっているわけではありません。正当な根拠を指し示した上で、妥当な要求を、議会民主主義のルールに則って、大阪府に実現をせまっているのです。

　大阪府知事に要求を提出し、大阪府議会には要求項目を請願として提出しています。今月の20日、その請願が府議会議場に議案として提出されます。釜ケ崎の切実な要求が、実現に向けて大きな一歩を踏みだすことができるかどうかの、大切な節目であると考えています。

　しかし、残念ながら私たちの力はそんなに大きなものではありません。そこで、皆さんのお力をお貸しいただきたいと思います。

　どうか、どの会派であるかは問わず、全ての府会議員諸氏に、請願第51号「釜ケ崎（あいりん地区）労働対策に関する件」については賛成に回るよう、要請していただくことをお願いいたします。